

月刊ELEVEN VILLAGE

2013年8月31日



Mirum: Vivamus est ipsum, vehicula nec, feugiat rhoncus, accumsan id, nisl. Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur

みなさま、こんにちは。ELEVEN VILLAGEの寿ちゃんこと寿一です。最近私の住んでいる所は、もう季節が秋になってきました。トンボが飛んでいたり、鱗雲が出たり、日の出が遅く日没が早くなり、夜は毛布無しでは寝れなくなり、とっても寒いんです...

さて、今回の月刊 ELEVEN VILLAGEは、待ちに待った農について書いていこうと思います。実を言うと、農は、最初はダサい！カッコ悪い！イケテない！と思っていたのが、やってみると、全くの逆で、とっても面白くて、深くて、カッコ良くて、イケてることだと、最近つくづく思います。一度もやってないのに、想像だけで固定概念があっ

て、今まで馬鹿にした自分が情けないです...(苦笑)

ってことで、もし農をやってみたい方は、是非！是非！ELEVEN VILLAGE @田川宿に遊びにきてください。農業 超！楽しいから、ものは試しに一緒にチャレンジしてみませんか。最初から宣伝みたいになっちゃったけど...許してください(笑)。でも、ホント楽しいから、今このタイミングに乗ってこれる方は、是非一緒にやりたいな。もちろん、今すぐはちょっとって方は、また来世でヨロシク！って、ちょっと歩さん風に書いてみました(笑)

ほいで、やっとかさ、前置きはこの辺りにし、早速本題に入ります。農をするに辺り、最初は、土台作りが

大切になってきます。そこでまず、簡単に私の畑事情について書きます。自分が住んでいるところの畑は、大きく分けて2つあります。まずは、分かり易いように、畑(1)と畑(2)と名前を付けますね。畑を見て分かったことがあって、面白いことに、同じ地域、同じ気候、同じ土地なのに、距離で言うと10mぐらいしか離れていないのに、畑(1)と畑(2)とでは、全く違います。極端に言うと、北海道と沖縄の畑が違うのなら理解し易いのですが、同じ所にある畑が全く異なるということは、最初理解しがたく不思議でした。

それはどういうことかと言うと、畑(1)は、土がとっても固く、クワを入れるのが大変！だけど、土が固



クワ作業！エイヤっ！



スコップで土をならしています！ザクザク入れます！



完成した畝(うね)

いのもあり、草の根が這っていないので、草取りは簡単！そして、土の中に、ミミズはいなく、小さな虫も、ほほいませぬ。たま～に、土の上をバッタや蜂が飛んでいます。そして、土が層になっています。一方、畑(2)は、どうかと言うと、土がとっても柔らかく、クワはサクッと入ります。土が柔らかいので、草の根が生え放題！至るところに、根が這っています。なので草取りが超！大変！！土の中にミミズはおり、小さい虫や微生物が”わんさか”います。もちろん、土の中だけでなく、土の上には、バッタやコオロギが沢山いて、もちろん蜂もいます。虫が苦手な人からすると、ギョ...!!とすするかもしれません。そして、土は、層になっていません。

何故、畑(1)と畑(2)とで、ここまで違うのか最初は、謎でした。でも、運が良くて、すぐに、その謎が解けました。たまたま、隣に住んでいる方が「畑(1)は、4.5年前に前の住人が畑をしていて、引っ越して来る前に、大家さんが除草剤を散布したよ。畑(2)は、もう10年以上、畑をやってなくて、放ったらかしだよ。そして、畑をするなら、畑(1)でやらないと、野菜が出来ないよ。畑(2)では、絶対!!!野菜は出来ん！」と教えてくれました。なるほど、そゆことか！と思いました。つまり、畑(1)は、人間の手が加わっている畑。畑(2)は、何も人間の手が加わっていない自然の畑。その違いだけで、土だけでなく、虫などの生命までもが違いが出るんだ、と。でも、この隣の方が言う野菜が出来るかどうかは、ホントにそうだろうか、疑問も湧いてきました。そこで、たまたま奇跡のリンゴで有名な木村さんの本を読んでいて、土の事が書いてました。それは、「リンゴの木は、リンゴの木だけで生きている訳ではない。周りの自然の中で、生かされている生き物なわけだ。人間もそうなんだよ。人間はそのことを忘れてしまって、自分だけで生きていると思っている。そして

いつの間にか、自分が栽培している作物も、そういうもんだと思ひこむようになったんだ。農薬を使うことのいちばんの問題は、ほんとうはそこのあるんだよ。農薬を蒔くということは、リンゴの木を周りの自然から切り離して育てることなんだ...(中略)農薬の影響で、土の中の生態系が変化してしまったんだらうな。私の畑も同じだった。おそらく、土の中に棲息する微生物の量が、山の土に比べたら、ずっと少なかったんだと思う。あの時で農薬散布をやめてから六年経ってたけど、その前はずっと農薬を撒いてたから、生態系が壊れたんだと思うのな。おまけに、いつも草刈りをしていたから、生態系が回復することが出来なかった。生態系は無数の生き物n活動によって生み出されるものだから。」また、「森の木々は、農薬などを必要としないのだ...(中略)...山に虫がいないわけではないのだ。さっきから虫の音は、うるさいほどに鳴り響いている。あたりには小さな生き物の気配が充ち満ちていた。畑の虫にしても、あの大きなナメクジがそうであったように、その多くが山や森からやって来るのだ。病気の原因になるカビ菌も同じことだろう。それなのに、虫や病気が、このドングリの木を食い尽くさないのはなぜか...(中略)...決定的に違うことがひとつあった。雑草が生え放題で、地面は足が沈むくらいふかふかだった。土がまったくの別物だったのだ。」やっぱり！そういうことだったんだ！木村さんの本だけでなく、妻と一緒に図書館で本を30冊以上借りてきたり、農をしてる友達にリサーチしたり、ネットで調べたりし、農について、調べていく中で、分かったことがあって、それは、子育てと同じで農業には、色々なやり方があるってこと。例えば草を刈る人もいれば、刈らない人もいるし、農薬蒔く人もいれば、蒔かない人いる。種も蒔く方でも普通に蒔く人もいれば、種を中に入れた団子作って、蒔



畑作業後の一枚！



畑は、楽しいな♪



無心になれる草取り！



周くんと畑仕事！



奇跡のリンゴ「絶対不可能」を覆した農家 木村秋則の記憶
著：石川 拓治
発：幻冬社

F1種と固定種

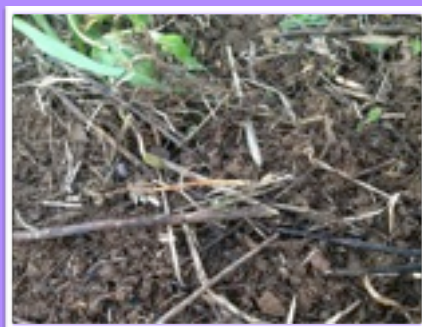
一般的に売られているのはF1種という種です。その種は、よく育ち、みんな同じ形をした野菜が出来るという特徴があるが、、出来た野菜から種を取って、翌年栽培しても、同じものが出来ないの、毎年毎年、種を買う必要があります。

また、この種は、農薬と科学肥料を使うことを前提として、種を品種改良されている物が多いので、身体にも、自然にも、非常に良くないです。

そして、一方で、固定種と呼ばれ、先祖代々受け継がれてきた伝統ある品種の種もあります。出来た野菜から種を取って、その種を植えると、また同じ野菜が出来る種です。

農薬や科学肥料を使わず、栽培・採取されており、非遺伝子組み換え。

もちろん、種を摂取した後も、薬剤処理されておりません。



土の様子！自然の土には、虫がいっぱいいます。
微生物、ダンゴ虫、ミミズ、、、etc

く人もいる。ほんとう、さまざまでどれが正しいのか、どれが良いのかは分からない。それは、見方、価値観、時代によって、正しくもなり、正しくなくなるといこと。僕たちは、どうせ作るならば、より自然の物で、人にも、環境に良い作り方をしようと決めました。

今では、もう知っている方も多いと思いますが、一般的な農では、F1種という種を使い、除草剤を使い、機械を使い、化学肥料を使い、何回も農薬を散布し、野菜を作ります。出来た野菜は、どれもほぼ均一で、虫食いは無く、見た目はとっても綺麗です。しかし、中身はどうでしょう。その出来た野菜は、人間の身体にとって、良いものとは言えません。もちろん、環境にとっても、良いものとは言えません。(有機農法についての説明は、今回は割愛します。ちなみに、有機農法と自然農は、全くの別物です。)

一方、自然農では、固定種という種を使い、耕さない、無農薬、無肥料、草伸び放題、虫と共存し、自然の循環のサイクルで野菜を育てる。出来た野菜は、形もばらばら、虫食いもあるし、見た目は綺麗ではありません。でも、人間の身体にとっては、非常に良いものです。もちろん、環境にとっても、良いものだと言えます。

たとえ、野菜の形が悪かろうと、ちょっと虫がかじったとしてもそれは、自然の事。ちょっとぐらい良いと思うんです。人間でも長所があれば短所が有り、でこぼこなのだから、野菜も一緒に別に、野菜の形を均一に統一する必要はなく、色んな形があるのが、普通だと思います。

自然の中を見れば、雑草であったり、植物であったり、何も使わなくても自然に育っています。食物連鎖、循環の中で育って行ってる。それは普通の事。でも、人間がそこで勝手に農薬、除草剤、化学肥料を使ったりして、バランス崩して、そこで農業しようとしたりして、品種改良したもの、より自然じゃないものを植えようとしている。それはおかしいと思います。それで、結局、環境も汚すし、自然の体型も崩して行くし、ましてや、人の身体にとっても良くないものを食べ、それを医療の力を使い治すっていうサイクル自体がおかしいと思う。(興味ある方は、とっても有名な「マクガバンレポート」というのがありますのでネットで検索かけてください。もしくは、美健ガイド社から真弓定夫先生監修の本が出版されてますので、その本がお勧めです。)たとえそれが経済効果を生むとしてもやっぱり不自然だと思います。

また、一般的に行われている種の品種改良して、おいしさを追い求めるのも大切。おいしさも、それは、もちろん大切だけど、私たちはより自然な物、環境を地球を守ること、環境というのは土であったり、虫、生態系であったり、より自然な事とは、人にとって、人間のからだにいいもの、安心して食べられる物を創ろうと決めました。それが、長い目で見ると、絶対に、自分たちだけでなく、ちょっと大げさかもしれないけど、周りのみんな、そして、子どもだけでなく、次の世代、そして、地球環境を守るってことにも繋がってきます。それほど、農は、とってもとっても深く、これからの日本では大切になってくることなんです。

それで、私たちがやろうとすることは今、新しい事ではなく、まだあまり知らないだけで、何年も何年も前から先人の人が経験を積んでくれて失敗を繰り返して、学び、試行錯誤されて確立された農業です。だから、今までこの自然のため、この環境のため、みんなの安全のため。みんなが安心して食べられることができる野菜のため。農家の人も安心して農作業できるため。私たちはそれがやっぱり、この自然農という農の方法が良いと思ってチャレンジしています。でも、まだまだ農経験豊富な周りの方からすると、「あれ？何か和達達とは違うぞ！あの人は何してるんだ？」と言われることも多いで



はじめての芽が出た時に撮った写真！
それは、それは、感動でした...。
嬉しい一時でした！

芽が出てから、約1週間もすると、
スクスクと育ってきます。
この芽は、インゲンです☆



未来の思い出のワイン、いかがですか

カーブ田中屋

-新町綾小路下ル西側-



京都市下京区新町通綾小路

下ル船鉾町378-2 新町パールハイツ102

TEL:075-276-6151

FAX:075-276-6179

営業時間：11:00～19:00

す。だけど、確立された農法で、これからの時代、この農のやり方が必須となってきます。ほんと、そろそろ変わる時期だと思えます。もうそろそろ、経済のためだけではなく、自分達にとって、何が大切かを、気付く時だと思えます。じゃないと、手遅れになってしまいます。

これは、最近妻が発見したことなのですが、一般的な農法で作られた野菜を放ったらかしにしておく、ドロドロの液体が出てきて、腐ってきます。一方、自然農で作った野菜は、乾涸びてきます。どっちがより自然でしょうか(笑)どっちが、本当に良いものでしょうか。

もっと言うと、人間の身体は、人間が口にしたものと飲んだ水分とで出来ています。なので、どっちの野菜を取るの、良いか、一目瞭然だと思えます。さらに、男性は、肝臓や前立腺に。女性は、子宮に悪いものが溜っていきます。都合が悪いのは、ほとんどの人には、すぐに異常反応が起こるのではなく、少しずつ少しずつ、徐々に、ダメージが与えられていきます。そして、その異常反応が出るのが、自分かもしれないし、産まれた子供かもしれないし、非常に怖いことです。(子どもを産むのは、デトックスと言われています。今まで自分が口にしたもの、飲んだものが、全部自分の子どもにいくんです。出産したら、肌つやが良くなったとか、言う方がいますが、それは、全部子どもへいつているんです。)

なので、最近やたらと、産まれたばかりの子どもの肌の調子が悪い子がいっぱいいます。こんなことを書くと、ちょっと怖いかもかもしれませんが、大丈夫です！人間の全細胞は、2年もあれば、全部入れ替わります。なので、今、この月刊ELEV VILLAGE 通信を読んだ方、少しずつで良いので、明日から ちょっと食べるものから変えていきませんか。どんなものを買ったら良いか、どんなものを基準にして選んだら良いか、分からない方は、以前から自分たちがお世話になっている京都在住の木村明子さんが、「食品の見方・買い方が一瞬で分かるコツ」を唯一、京都にあるカーブ田中屋さんで、毎月教えてくれています。そこは、奇跡のワインと呼ばれるマキコレワインを取り扱っている知る人ぞ知るワイン屋さんです。このワイン屋さんで扱うマキコレワインは、農薬を使わず、自然な農法で収穫され

たブドウだけを使い、作られたオーガニックワインです。またこのワインは、ある思いがあり、ネット上で価格を出すことを禁止しており、それは、お客様とのコミュニケーションを大切に、直接マキコレワインの魅力を伝え、手渡ししてほしいという意向があり、この形態を取っています。また、店主の田中さんも、ワインに詳しく魅力溢れる方です。そんな思い溢れるステキな場所で、木村明子さんが唯一！毎月1回「食育レストラン」を開き、食品の見方、買い方を教えてくれます。開催してるのは、このカーブ田中屋さんだけです。興味ある方は、直接カーブ田中屋さんにお問い合わせください。連絡先を載せておきます。

もう、環境も、地球も、人間も、だいぶ限界にきているとおもいます。食べ物を選ぶ基準を変えるって、ほんとと些細なことかもしれませんが、そこから、日本が変わっていくと確信しています。私たちが食べ物を選ぶ基準を変えると、スーパーや農家さん、レストランなどが、私たちが求めているものへと変わってきます。そして、食べ物から、じぶんたちが健康になり、自分たちの子供も安心で、さらに、食が変わると、農も変わり、地球環境も変わり、自然と共存していくようになり、昔みたいな不便だけど、あったかくて、住みやすい社会になります。そんな明るい光ある未来への一歩が、あなたが食べ物の選択する基準を変えることなのです。自分一人だけでは、この社会、この世の中は変えることは出来ないの、自分たちの未来は自分たちで作っていきましょうよ！一緒に、自分たちもそうだし、自分たちの子ども、この自然、この環境、この地球を守っていきましょうよ。もし、よっし！やろうという方は、一緒にやりましょ！まだの方は、今はネットでいるんな真実を調べることが出来ます！ので、調べてみてください。みんなで一緒に、この地球を守っていきましょう。

そのために、自分の役目は、この月刊ELEV VILLAGE 通信を通じて、記事を書くことで、そして、自分の夢であるELEV VILLAGEを創り上げることで、是非！是非！一緒にやりましょ！まずは、食べ物を選ぶ基準という一歩から変えていきましょう！じゃ、今日はこのあたりにして、来月の月刊ELEV VILLAGEをお楽しみに。

最後まで、読んでくれて、本当にありがとう。